

27年度 美術科

教科書選定の観点

- (1) 美術科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- (2) 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。
- (3) 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、多様な表現方法や造形要素に関心をもたせる題材の構成が工夫されているとともに、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。
- (4) 表現活動と鑑賞活動の有機的な関連が図られ、かつ創造的な内容が取り入れられているとともに、内容に偏りがなくバランスがとれ、題材の配列にも配慮されており、全体の分量も適切であること。
- (5) 心豊かな生活を創造する意欲と、美術を愛好する心情を育てるとともに、国際理解を進め、伝統と文化を尊重し、そのよさを継承・発展させる態度の育成が図れるよう工夫されていること。
- (6) 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。
- (7) 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。
- (8) 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- (9) 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で美しく使いやすいうえに加えて、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。